

不登校対策について（現状と対策）

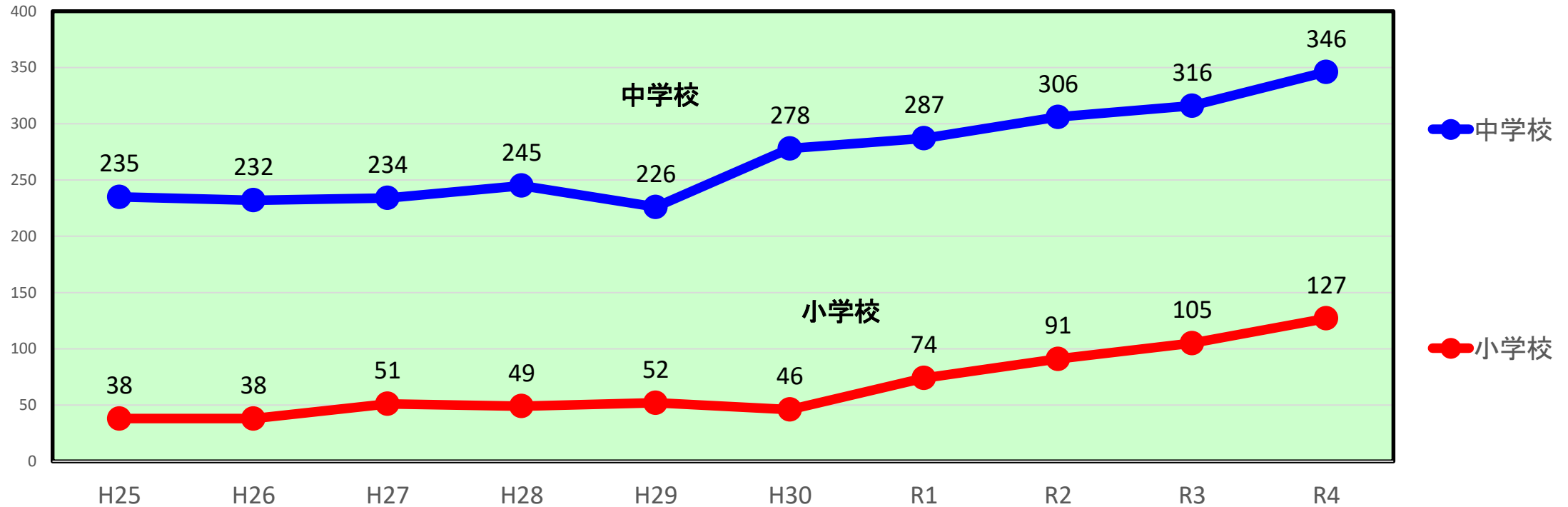


令和6年2月8日
教育委員会事務局
総合教育センター



Ⅰ 小・中学生の不登校の現状

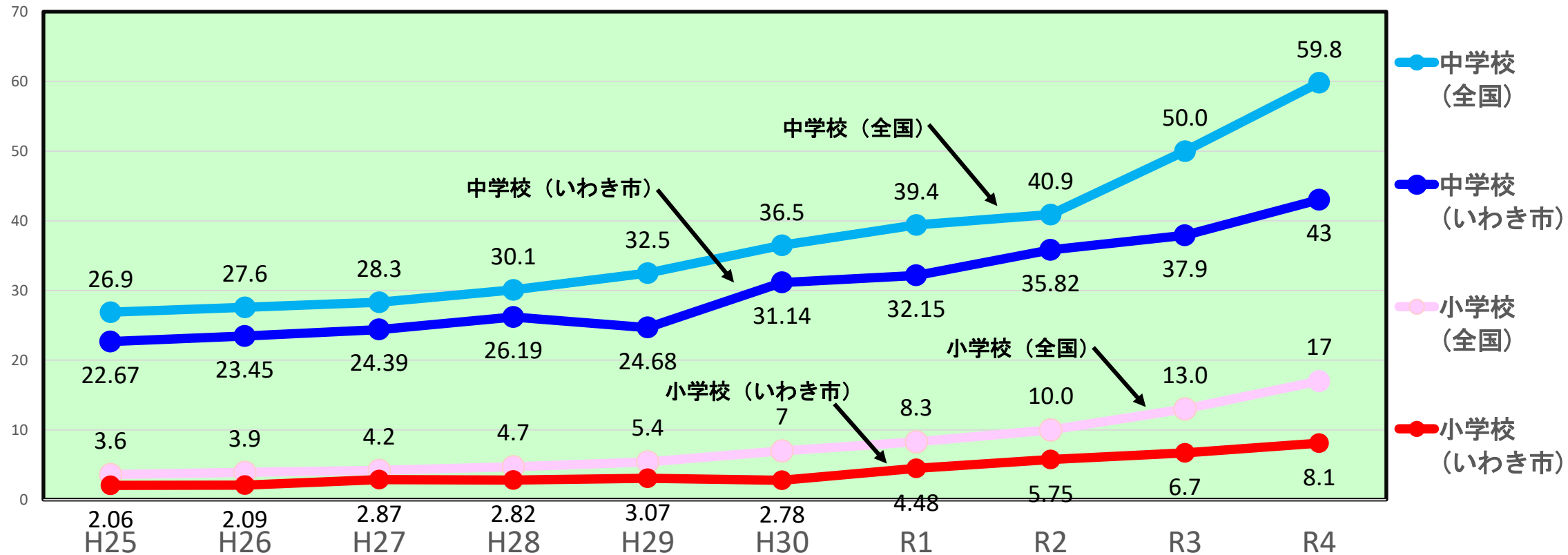
不登校児童生徒数の推移(いわき市)



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	38	38	51	49	52	46	74	91	105	127
中学校	235	232	234	245	226	278	287	306	316	346
計	273	270	285	294	278	324	361	397	421	473

Ⅰ 小・中学生の不登校の現状

不登校児童生徒の割合の推移(1,000人あたりの不登校児童生徒数)



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校 (いわき市)	2.06	2.09	2.87	2.82	3.07	2.78	4.48	5.75	6.70	8.10
中学校 (いわき市)	22.67	23.45	24.39	26.19	24.68	31.14	32.15	35.82	37.90	43.0
小学校 (全国)	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7	8.3	10.0	13.0	17.0
中学校 (全国)	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8

2 不登校に関わる課題

【児童生徒の悩み】

- 原因がわからないことへの混乱
- 人間関係への恐れ
- 将来への漠然とした不安

【家庭の悩み】

- 育て方についての不安、責任感
- 不登校継続への不安、家庭内の考え方
- 親子間のコミュニケーション

【学校現場の悩み】

- 児童生徒への継続的な支援
- 進路指導
- 学びの場の提供
- 校内支援体制構築
- 保護者への教育相談
- 関係機関との連携
- 学びの多様化への対応

【それぞれの課題】

- 原因・背景の多様化
- 対応の個別化

【本市の課題】

- 居場所（チャレンジホーム、SSR等）の不足、地域偏在

3 これまでの不登校への対策

1 居場所づくり

●適応指導教室（チャレンジホーム）の設置

平チャレンジホーム（総合教育センター内）

小名浜チャレンジホーム（小名浜公民館内）

磐崎チャレンジホーム（磐崎公民館内）

植田チャレンジホーム（植田公民館内）

週3日（月曜・水曜・金曜 10：00～15：00）



小名浜チャレンジホーム

●SSR（スペシャルサポートルーム）設置

担当教員配置校（県教育委員会） 小学校1校 中学校3校

※ 学校独自にSSRを設置し、校内体制により指導支援にあたっている学校もある。

（令和5年度 チャレンジホームの合同体験活動）

○合同行事（いわき海浜自然の家）

○勤労・社会体験（すずかけ幼稚園）

○チャレンジアリオス（いわきアリオス）

○職場体験学習（アクアマリンふくしま）

○出前講座（音楽サークル・市美術館学芸員）

○SST（市スクールカウンセラー）

○合同学習会（総合教育センター）

3 これまでの不登校への対策

2 相談・支援事業

●相談窓口の充実（総合教育センター）

面接相談「子ども健康教育相談」平日9：00～17：00

電話相談「すこやか教育相談」平日9：00～18：00 土日9：00～17：00

●児童生徒、家庭への支援

指導主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、
心の教室相談員・心の教室カウンセラー

●「The暖会」の実施（年2回 11月 3月）

不登校児童生徒の保護者と、SC・SSW、相談員等が話し合い、連携を図る場

（The暖会での保護者の意見から）

- みんな違っていいという多様性意識の共有（先生間、学校保護者間で）
- 学級の情報を常時欠かさない（→忘れられていないというメッセージ）
- 本人・家族に合わせた言葉かけや連絡方法、家庭訪問
- たくさんの先生がいつも優しく声をかけてくれるという安心感
- 登校時の柔軟な対応が準備されていること（時間、場所、活動）
- 保護者支援、保護者が話せる場（先輩保護者から学ぶ等）があるとよい

3 これまでの不登校への対策

3 教員研修

●不登校対策講座（前期 8月）（後期 10月）

ねらい 不登校を未然に防止するために、実態や課題の把握、教職員の役割、必要な支援等、学校組織としての取組み方について研修を深め、個々の指導力の向上を図る。

講師 F R教育臨床研究所 所長 花輪 敏男氏

内容 (1) 不登校児童生徒数の現状の把握
(2) 学校（組織）としての体制づくり
(3) 不登校児童生徒に対する認識
(4) 不登校児童生徒へのアプローチの仕方
(5) 不登校対策の事例検討
(6) 発達障がいの二次障害
(7) 不登校予防の基本的な考え方

（講座内容 (7)不登校予防の基本的な考え方 から）

発生予防、早期発見・早期対応、再発防止

【児童生徒として】 気持ちが分かってもらえたという実感、自己決定

【学校として】 授業の充実、学級経営、特別支援教育の充実、発達障がい特性の理解

【家庭として】 ゲーム依存への対応、親子の話し合い

3 これまでの不登校への対策

4 その他

- 不登校対策会議の実施（年2回 7月 12月）

S C、児童相談所、P T A、教育事務所、家庭児童相談員、教育相談員、学校関係者、チャレンジホーム指導員等

- 毎月の調査等による実態把握

（いわき市不登校対策会議の提言から）

- 保護者との関係構築、及び保護者支援、そのための教員意識改革（R3）

- 将来的な見通しと計画的なサポート（R3）

- 本人の特性の把握（認知、性格傾向、背景要因等）（R4）

- ケース会議に重点を置いた組織対応（R4）

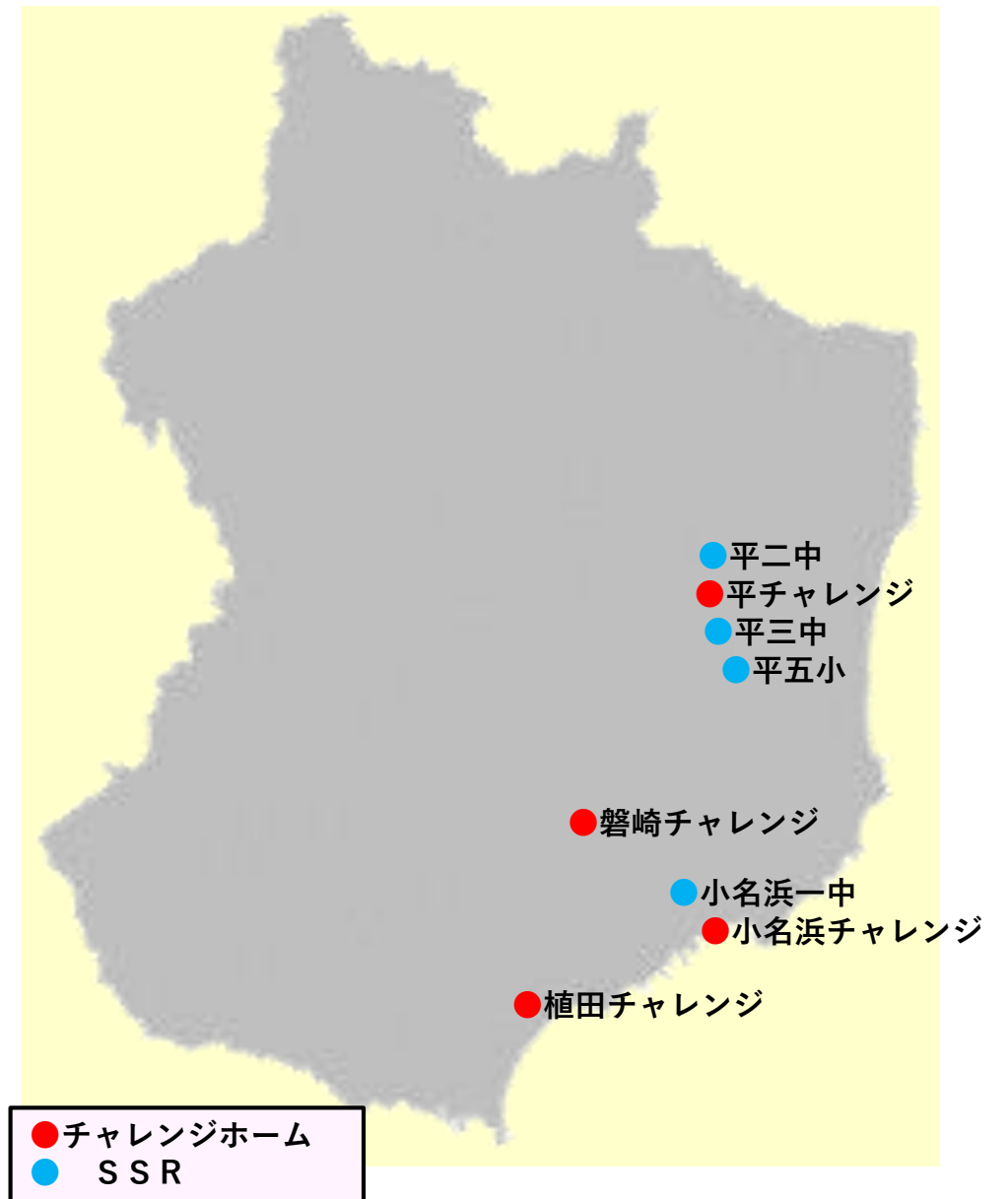
- 学校に来たくなる魅力ある学校づくり（R4）

4 今後の取組み予定（多様な学びの場の整備）

【不登校にかかわる課題】

学校外の居場所等（チャレンジホーム、SSR）等の不足、地域偏在

	学校数 (R5)	チャレンジホーム	SSR 設置校
平地区	小15 中9	平チャレンジ (総合教育センター)	平二中 平三中 平五小
四倉・久之浜・大久地区	小4 中2		
小川・川前地区	小2 中3		
内郷地区	小6 中3		
好間・三和地区	小4 中2		
小名浜地区	小11 中5	小名浜チャレンジ (小名浜公民館)	小名浜一中
常磐地区	小6 中4	磐崎チャレンジ (磐崎公民館)	
勿来・遠野・田人地区	小12 中9	植田チャレンジ (植田公民館)	



4 今後の取組み予定（多様な学びの場の整備）

子どもが安心して多様に学ぶことができる居場所の提供
（チャレンジホールの改善充実分を含む）

～学校復帰へのステップの地域差解消～

- ・チャレンジホール等が設置されていない地域対象
- ・指導員による個別の学習支援（児童生徒の孤立化防止）
- ・タブレット活用による学習支援（個別最適化な学び）
- ・在籍小中学校との連携強化（組織的な支援）
- ・保護者との連携（教育相談等）

※指導員については、
退職校長等教育経験豊富な人材を登用していく

平チャレンジホール

